

2021年4月13日

海外活動支援委員会 世界を知る小テスト（ペルー編，上級編）

森山 浩光 技術士（農業部会）（Q1～Q7）

坂本 文夫 技術士（建設部会）（Q5～Q6）

山下 直樹 技術士（建設部会）（Q8～Q10）

Q1. 南米ペルーには、古くから先住民が住んでいて、豊かな文化を営んできました。とくに有名な文化、帝国の名前を挙げてください。

A1. ()

Q2. スペイン人が南米に侵略し、インカ帝国を目指したのはキリスト教の布教というよりは、そこ、特にペルーの地が「黄金の都（エル・ドラード）」と言われていたからです。その征服者の名前はフランシスコ……と言うのでしょうか？

A2. (フランシスコ・_____) スペイン人の名前

Q3. そのとき、帝国の軍隊は8万人の大規模だったのですが、200人もいない数少ないスペイン人たちに皇帝が捕らえられました。何故そうなったのでしょうか？その理由を考えてみましょう。

A3. ()

Q4. 当時、帝国の首都はクスコにありました。皇帝は捕らえられた牢屋を一杯にする黄金と引き換えに解放されるという事でしたが、その後、皇帝はどうなったのでしょうか？

A4. ()

Q5. スペイン軍は、多くの先住民の都市を破壊しましたが、「空中都市」と呼ばれるある地域は見つかることなく、1911年に再発見されるまで、ほぼ無傷のまま残されていました。1450年頃インカ第9代皇帝の時代につくられたこの都市の名前は何でしょうか？

A5. ()

Q6. ペルーは、いつスペインから独立したのでしょうか？

A6. ①1837年 ②1789年 ③1721年

Q7. 日本がペルー共和国に、移住を行ったのはいつからでしょうか？

- A7. ①1868年 ②1899年 ③1908年

Q8. ペルーでは15世紀のインカ文明が有名ですが、アンデス文明の中でチャビン文化の時期は以下のどれでしょうか？

A8.

- ① 紀元前1000年頃～紀元前200年頃
- ② 紀元前後～紀元後800年頃
- ③ 850年頃～1470年頃
- ④ 1200年頃～1533年

Q9. ペルー共和国の首都での年間の月平均湿度の範囲は以下のどれでしょうか？

A9.

- ① 20～50% ②40～70% ③70～100%

Q10. ペルーでは、ぶどうの蒸留酒をサワーカクテルで飲むのがポピュラーですが、その名前とアルコール度数の組み合わせは以下のどれでしょうか？

A10.

- ① メスカル, 43度
- ② シンガニ, 41度
- ③ ピスコ, 42度
- ④ メスカル, 15度
- ⑤ シンガニ, 12度
- ⑥ ピスコ, 12度

海外活動支援委員会 世界を知る小テスト（ペルー編，上級編）

<上級編>解答

解答 1.（正解は、**インカ帝国**です。）紀元後 1200 年から 1533 年まで、約 300 年年間栄えた文化でした。針も通さないほどの石積みの遺跡などでも知られています。

なお、**プレインカ時代の文化**には、チャビン、パラカス、ナスカ、ワリ、チャンカイ、モチェ、チムーなど様々な文化があります。

日本人の**天野芳太郎氏**（リマ名誉市民でもあり、2019年2月にはペルーで生誕120周年の記念切手が発行された。）は主に、多くのプレインカの研究をされましたが、特にチャンカイ文化の土器や織物を収集し研究しました。1964年に博物館を設置し、50年を迎えた2015年に**ペルー古代織物専門の博物館**として生まれ代わりました。

織った布から出たひも状の部分に結び目をつくることにより、多くの情報を伝える材料として使うなど多様な文化が南米に花開いた時期を想像するだけで、時を超えて人間存在の活動の素晴らしさを感じることができます。

解答 2.（正解は、**フランシスコ・ピサロ**です。）スペイン人の遠征隊長でした。

ピサロらは今のペルーに入った後、周囲の人々に物を渡すなどして安心させ、しばらく国内事情の詳細を調べ、その後、インカ帝国の皇帝を捕らえる暴挙に臨みました。

解答 3.（**馬の存在**があげられます。）スペインの兵士はわずか169人であったのですが、**馬が61頭**おり、インカの人々はその見たこともない動物の上に乗った人間が6本足で頭が二つある動物であるかのように見えたため、それを**大変恐れた**とされています。

さらに、「太陽神」として崇められていたインカ皇帝アタワルパが捕らえられると、兵士らはもはや為すすべがなかったのです。

また、大型の家畜がいなかった南米では、**スペイン人が持ち込んだ感染症**はしかや天然痘がなく、その感染が広がったこともインカ帝国の人口の急減の大きな要因になりました。帝国の軍隊の戦力を大きく失うことになったといわれています。

解答 4. (皇帝は死刑に処せられました。)

ピサロは、1532年に皇帝を捕らえ、全国から黄金を集めさせた後、その翌年の1533年に皇帝を絞首刑にしました。しかも、皇帝はフランシスコという洗礼名を与えられての非業の死でした。

ピサロは、インカ帝国の首都クスコから、1535年に彼らの拠点であったリマに首都を移します。旧市街セントロの中央にある、カテドラルの礎石はピサロが置いたとのことです。1535年1月18日のことでした。1月18日は、リマの建都の日でもあります。なお、ピサロは1541年6月にスペイン人に暗殺されています。

中南米には、このようなヨーロッパ人が建設したカテドラルや教会が各地に残っています。

解答 5. (正解は、マチュピチュ (Machu Picchu) です。)

マチュピチュに行くには、クスコまで飛行機で行き、そこから車と電車でマチュピチュ駅まで行き、さらに専用バスで25分乗って、遺跡下から歩いて行くことになります。遺跡は、標高3061mのマチュピチュ山(ケチュア語で「老いた峰」と2690mのワイナピチュ山(同じく「若い峰」)を結ぶ尾根にあります。

日本からだと相当な時間がかかって、ようやく到達できる世界遺産です。

解答 6. (正解は、③1821年です。) ペルーは、1821年7月28日にスペインから独立しました。

18世紀末、南米各地で起こった独立の波は、ペルーにも広がり、1811年に始まった、独立戦争は1821年にアルゼンチンの軍人ホセ・デ・サン・マルティンによって、ペルーの独立が宣言されました。

ちなみに、①の1837年は、江戸時代に大坂町奉行の元与力大塩平八郎(中斎)とその門人が起こした江戸幕府への反乱が起こった年。②の1789年は、言わずと知れたフランス革命の年です。

解答 7. (正解は、③1899年です。)

ペルー(秘露)への移民は、ブラジル(伯刺西爾)への移民(1908年)より早くから行われました。ペルーへの移住も大変厳しい環境の中、行われ逃亡する人も多くいました。現在ではペルーに日系人が約10万人住んでいます。

1990年には、政治家としては無名だった日系人三世のアルベルト・ケンヤ・フジモリ・イノモト氏が「貧しい人たちのための政治」を掲げて大統領になりました。政府の干渉を少なくして、公営企業の民営化などの政策をとったが、結果はインフレが進行し、貧富の格差が拡大しました。また、第二期の大統領

時代に、日本では高く評価される「日本大使館人質事件」の対応は、ペルーの間では様々な評価があり、政治の難しさを表しています。

解答 8. (正解は、①です。) **チャビン文化**は、**ペルーの文化の草創期**に現れた神殿文化です。各地に大きな神殿を建設しました。いくつもの遺跡の中で有名なのは、文化の名称ともなった**チャビン・デ・ワントル**遺跡です。ジャガーやコンドル、蛇などで構成された図案は、土器、金細工や織物などの文様に使われました。

アンデス地方に人類がたどりついたのは、紀元前 1 万 5 千年前と言われており、アジア系にも似た先住民はマメとジャガイモを主食とし、その後定住してトウモロコシ栽培が始まり、やがてトウガラシや綿も栽培した。後年の織物文化につながっていく。紀元前 2000 年頃から土器の製造が始まり、前 1000 年頃にチャビン文化につながっていきます。

ペルーから南はボリビア西部、チリ北部、北はエクアドルにつながるアンデス地方の文化は、アンデス文明と呼ばれ、中央アメリカの文明と共に、古代エジプト、中国、メソポタミアなどに匹敵するアンデス文明を形成した。

紀元前 1000 年頃～紀元前 200 年頃	チャビン文化
紀元前後～紀元後 800 年頃	ナスカ文化
850 年頃～1470 年頃	チムー文化
1200 年頃～1533 年	インカ文化

解答 9. (正解は①で、湿度は 20～50%です。)

(解説；森山)

大変乾燥した気候です。しかし、ペルーアマゾンの地域は、密林に被われ、ジャガーなどの猛獣もあり、特に疾病が多いため、疾病の少ない海岸沿いの乾燥地域の方が、安全と考えられた面があります (解説；森山)。

なお、現在内陸国のボリビアは、1879 年から 1894 年にかけてペルー共和国、チリ共和国の 3 国で「太平洋戦争 (硝石戦争)」を戦いましたが、チリ共和国が勝利したため、ボリビアは太平洋への海に面したアントファガスタ州を、ペルーは旧タラパカ県とアリカ県を失うことになった。チリ共和国は現在の第一州、第二州と周辺の領土を獲得しました (解説；森山)。

解答 10. (正解は③ピスコで、42 度です。)

以下、山下技術士によるピスコの解説です。

1. ピスコ(Pisco)とは？

ペルーでは「神の美酒」と称されるブドウの蒸留酒。ペルー国南部のイカ州、ピスコ地方で生産されている。色は無色透明か淡い琥珀色をしており、アルコール度数は約 42 度。樽熟成する「ブランデー」とは異なり、爽やかな風味と優しい口合当たりが魅力である。

ピスコ用ブドウの新鮮な果汁を発酵させ、その醪（もろみ：発酵中の液体のこと）を伝統的な方法で蒸留して造られた液体をピスコと呼ぶ。その生産地はリマ州、イカ州、アレキパ州、モケグア州の 4 州の沿岸部と、タクナ州のロクンバ渓谷、サマ渓谷、カプリナ渓谷に限られる。ペルーでは、ピスコは国民的な酒でありブドウの収穫期である 2 月の第 1 土曜日を「ピスコサワーの日」と定め、リマ市内では様々なイベントや催しが開かれている。日本でも在日本ペルー大使館で 2 月の第 1 土曜日に「ピスコサワーの日」を祝うイベントが毎年行われている。

2. ピスコの製法

ピスコに使われているブドウは主に「ケブランタナ品種」であり、これを十分に圧縮してブドウジュースを作る。ピスコを製造している酒造を「ボデガ」といい、大きなボデガはこの行程を機械で行っているが、小さなボデガでは今なお原始的な「脚で踏みつぶす」方法が用いられている。次に、ジュース状にしたブドウを発酵槽に入れて自然発酵させてワインを造る。発酵槽でアルコール度数が 10 % 程度になった時点で取り出し、ポットスチルに入れて蒸留させてできあがる。

3. ピスコの特徴

ピスコは無色透明なままで出荷されるホワイトブランデーである、ということが大きな特徴である。一般的なピスコは樽熟成を行わず、日本の焼酎のように甕熟成をさせるため液色が透明なままである。

ピスコの原料となる「ケブランタナ品種のブドウ」には数種類あり、その種類によってピスコも種類が分かれる。その中でも代表的なピスコの種類は以下の 4 つである。

① プーロ(Puro)： ピスコ用ブドウのいずれかの単一品種で造られる。柔らかな香りが特徴であり、アロマティコと比べてあまり香りが強くない。ストレートでもオンザロックにして飲んでも美味しく、ピスコ本来の味を楽しむことができる。

② アロマティコ(Aromatico)： プーロとは逆に香りが強く爽やか。かなり香りの強くなるモスカート種から造られるため、その名のとおり独特の爽やかな香りを楽しめる。

③ モスト・ベルデ(Mosto Verde)： ブドウの発酵途中の醪を蒸留して造られる。喉が熱くなるようなキツイ口当たりが独特。通常のピスコの約 2 倍のぶどうを材料に用いて製造されるため、ブドウ本来の繊細でエレガントな香りと深いコクを持ったピスコに仕上がる。

⑤ アチョラード(Acholado)： 次のいずれかの組合せで造られる

・ 芳香ブドウと非芳香ブドウを混合、

- ・芳香ブドウの果汁と非芳香ブドウの果汁を混合、
- ・芳香ブドウの発酵したブドウ果汁（ワインの状態）と非芳香ブドウの発酵した果汁、
- ・芳香ブドウのピスコと非芳香ブドウのピスコ

ケブランタナ品種のブドウの他に様々な品種のブドウをブレンドして造られるため、多様なブドウの特色とバランスがある。

4. ピスコの歴史

ペルー国南部（リマから約 238km の所にあるピスコ市、人口は約 11 万人）に位置するピスコ地方は、わずか数十メートル先に太平洋の海原を望む砂漠のオアシスであり、古来よりこの地域に住む人々は「ピスコ」という共同体を作り生活していた。16 世紀初頭になると、この地域がワインの製造に適していると判断したスペイン人たちが、ブドウの苗とその栽培法をこの地域に持ち込んだ。その際、大量に持ち込んだブドウを入れるために、ピスコの人々が作った陶器の壺を使い、そしていつしかその壺が「ピスコ」と呼ばれるようになったらしい。

その後、この地域ではワイン造りが盛んになり、やがて地域一帯がピスコ地方と呼ばれるようになった。1613年の記録には、「ブドウの蒸留酒が作られ、それがとてもまろやかで美味しいことからペルー全土のみならず、チリなどの近隣諸国にも輸出された」とされている。この輸出時にピスコ地方の港から運び出されていたことから、港のある地方の名前である「ピスコ」が蒸留酒の名前として用いられ、ペルー産のブドウのブランデーは「ピスコ」と呼ばれるようになった。

5. ピスコの美味しい飲み方

ピスコはストレートやロックでそのままの味を楽しむのも勿論良いが、いくら口当たりがまろやかでもアルコール度数が 42 度もある蒸留酒なので、お酒好きの方以外には敷居が高いかもしれない。そんな方にもお勧めなのが世界的にも有名なカクテルである「ピスコサワー」。ピスコの芳醇な香りはそのままに、飲みやすさとまろやかさが魅力のカクテルであり女性にもお勧めである。以下のレシピで簡単に作ることが出来る。

ピスコ: 60ml, ライム果汁: 15ml, シロップ: 30ml, 卵白: 半分, 氷: 6 個, シナモンパウダー: 適量

6. ピスコの定番銘柄

ピスコはペルーにおいて大小さまざまなボデガ（酒造）で造られている。その定番銘柄と言えば「アンドリエゴ」や「カルデロン」が有名だが、日本では入手しにくい。日本で入手しやすい銘柄は「タベルネロ」。甘酸っぱさと口当たりの良さが魅力であり、使用しているブドウの種類によって、更にいくつかの種類がある。ブドウをミックスしたバランスの良い「チョコレート」などがある。また、ペルーのイカ州に約 150 ヘクタールの農場を持つ最大級のワイナリー TACAMA で生産されるワインやピスコは、世界のコンテストでも上位入賞し、また大使館での公式行事やパーティでも振舞われている。

ちなみにピスコサワーというのは、下に示すような白い飲み物です。



撮影：山下 直樹